

第12回コンGRESSにおけるワークショップ

「矯正施設における過剰収容に対する戦略とベストプラクティス」

コンGRESSとワークショップ

「コンGRESS(国連犯罪防止・刑事司法会議)」は、国連が主催する刑事司法分野における世界最大の国際会議であり、1955年以来、5年ごとに開催されています。第12回に当たる今回は、2010年4月12日から19日まで、ブラジルのサルバドールで開催され、約100か国から司法大臣、検事総長などの高官を含む政府関係者の参加があったほか、国際機関、NGOからの参加や個人資格による参加も含めると約3,000人の刑事司法関係者が参加しました。

第12回のテーマは、「グローバルな課題に向けた包括的戦略:変化する世界の中の犯罪防止及び刑事司法システム並びにそれらの発展」であり、児童及び若者と犯罪、テロリズム対策のための技術支援、犯罪防止に関する国連基準の活性化、マネーロンダリングに対処するための国際協力などの議題について、各国が意見を交換し、その結果は、サルバドール宣言として採択されました。

今回のコンGRESSでは、以上の全体会合のほか、5つのワークショップが開催されました。そのうちのひとつ、「矯正施設における過剰収容に対する戦略とベストプラクティス」は、アジ研が企画・運営したものです。なお、ワークショップの議論の礎とするために事前に準備されたバックグラウンド・ペーパーは、国連薬物・犯罪事務所(UNODC)の[ウェブサイト](#)から入手可能です。

過剰収容ワークショップの内容

ワークショップでは、まず、「過剰収容の現状」、「過剰収容の原因」、「過剰収容の対策」及び「中・低所得国に固有の過剰収容問題」について、専門家5名によるプレゼンテーションが行われ、引き続いて、以下の3つのパネル・ディスカッションが行われました。(各プレゼンテーションとパネル・ディスカッションの要旨)

1 第1パネル

判決がなされる前の段階において取り得る過剰収容対策

第1パネルでは、判決がなされる前の段階において取り得る過剰収容対策、特に未決拘禁者の数を減らすための方策について議論がなされました。

途上国の中には、被収容者の半数以上が未決拘禁者である国もあり、その原因として、非効率な裁判による未決拘禁の長期化などが指摘されています。この問題の解決策として、弁護士補助職員(パラリーガル)を積極的に活用することによって

裁判を迅速化した事例が紹介されました。

2 第2パネル

判決や判決後の段階における過剰収容対策

第2パネルでは、有罪判決における量刑やその後の処遇段階において取り得る過剰収容対策について、議論がなされました。

この問題を解消するためには、拘禁刑に対する代替措置（社会奉仕命令、自宅拘禁刑など）の導入などが有効と考えられるところですが、その具体的な運用の在り方によっては、かえって逆効果となることが紹介されました。そのほか、矯正処遇の充実によって再犯防止を図った結果、刑務所収容人員が減少した事例や効果的な仮釈放の在り方についても紹介がありました。

3 第3パネル

国民や関係者の支持・支援を獲得するための戦略

第3パネルでは、これまでの二つのパネルで論じられたさまざまな過剰収容対策に対する市民や関係者の支持・支援を得るための方策について、議論がなされました。特に、受刑者の社会復帰への支援を広く呼び掛けて成功を収めたシンガポールのイエロー・リボン・プロジェクトが注目を集めました。

おわりに

過剰収容ワークショップは、合計6時間に及ぶ長丁場であったにもかかわらず、常時150人程度の聴衆が出席し、活発な意見交換が行われるなど、非常に好評でした。ワークショップ終了後、これらのプレゼンテーション及びパネル・ディスカッションの成果を踏まえて、[ワークショップとしての勧告](#)を採択し、 kongress の全体会合に報告しました。今回のワークショップが、世界における過剰収容の解消への第一歩となることが期待されます。